

名 前	第4回茨木市部活動の地域移行検討協議会（まとめ）		
日 時	2025年7月4日（金） 16:00～17:30	場 所	茨木市教育センターセミナー401号室
出席者	【委員】 14名 ■辰本委員（委員長）・廣瀬委員（副委員長）・栗生委員（副委員長） 松元委員・壽崎委員・塚本委員・中原委員・田中委員・福田委員・西浦委員 （事務局兼任）九鬼委員・坪田委員・大池委員・田中委員		
	【事務局】 7名 ■市民文化部 スポーツ推進課 九鬼課長 坪田参事 ■茨木市教育委員会 学校教育部 学校教育推進課 ■教職員課 大池課長、田中課長代理、森山指導主事、川本主査（記録） 上垣内指導主事		
欠席者	■なし		

【資料】

※資料参照

【第4回 議事内容(まとめ)】

1 はじめに

- ・委員の紹介（令和7年度より人事異動等の関係により、3名の委員に変更があった旨を確認）
→新たに参加される3名の委員を紹介

（あいさつ）大池 学校教育推進課長より

昨年度から検討協議会が開催され、丁寧な協議を重ねてこられたとうかがっている。全国的にも非常に注目度の高い取組みであるが、様々な課題もある状況であるので、参加されている委員のみなさまのご意見を賜りながら、茨木の子どもたちにとって一番良いやり方を追求することを今後も大切にしていきたいと考えている。本日は講師の方からのご講義もお聞かせいただき、見識を深めていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

※配付資料の確認

2 第3回協議会のまとめおよび直近の国や府の動向について

○事務局より説明

- ・5月16日に有識者会議より「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン（最終まとめ）」の報告があった。（別紙参照）
- ・中間まとめを踏襲した形となっており、「地域移行」→「地域展開」という名称に変更し、学校から切り離すイメージではなく、学校も地域の1つとして、地域展開に関わっていくイメージを強化している印象あり。
- ・令和8年度～令和13年度を改革実行期間（令和10年度末に中間評価）として、新たに設定。
- ・受益者負担の費用や認定に係る項目等についても夏以降にかけて、国が示す予定にしている。

茨木市部活動地域展開に係る現状と課題および令和7年度の取組(計画)について

- ・本市のアセットを有効に活用し、地域と連携しながら、地域に愛される、地域に根付いた「持続可能な」地域クラブの体制を整備し、子どもたちの多様な活動を保障できることが、理想として考えている。
- ・令和7年度より、部活動指導員、部活動指導者を拡充しており、部活動指導員・指導者の方々は、可能なかぎり、将来的に地域クラブ指導者として指導にあたっていただきたいと考えている。
- ・令和7年度の3つのモデル実施(実証事業)について
 1. サッカー(安威川 FC)のモデル実施について・・・(団体種目・顧問主導モデル)
 2. 水泳(茨木アクアクラブ)のモデル実施について・・・(個人種目・教職員・協会(連盟)協働モデル)
※令和7年度より西中学校を拠点として、部活動の拠点校制度の導入開始。
 3. バドミントン(立命館大学)のモデル実施・・・(個人種目・大学(地域)主導モデル)
→8月・9月頃～活動を開始していく予定にしている。今後、活動を通して効果や課題について検証。フィードバックを行っていききたい。
- ・各校、各部の実態や希望をヒアリングしながら、可能な部、可能なエリアから先行実施していくような形を検討中。また、新たな課題に直面→解消→発信(共有)のサイクルをとることができればと考えている。
- ・前回の協議会で講師から話があったように、実施主体の団体をとりまとめる運営団体をどのような形式で設置していくのか、方向性を決めたいうえで、推進計画を策定していく必要があると考える。

(質疑応答)

Q: 茨木市は今回、実証事業として3パターン試行していくとのことだが、ゆくゆくは絞っていく方向なのか。

A: 絞りすぎると受け入れ団体(実施主体)が限られてしまう懸念もあるため、現段階では融合型が良いのではないかという見解である。

(質疑応答)

Q: 市の専門職員(例えば、コーディネーター的な役割を担う方)を配置するのは何年後を予定しているのか?

A: できれば令和8年度から配置をしたい思いはあるが、予算との兼ね合いもある。会計年度任用職員でのコーディネーターがいいのか、正職員がいいのか、業務委託先に置くのがいいのか協議していく必要もある。

(質疑応答)

Q: 今後委員のメンバーを増やしていくような考えはあるか? より幅広い意見が必要になるものと考えているが。

A: ご意見としていただき、検討していきたい。今回のように講師等をお招きする形は具体的なイメージをもちやすく、今後講師の招聘も含め考えたい。

→幅広い角度から意見を出すためにも、メンバーは増やした方がよいと考える。

3 講師より 講義

《直近の動向・見えてきた課題など》

- ・地域展開が進むことによる子どもたちの参加率の低下(=スポーツ・文化活動機会の減少)を懸念。
- ・移行→展開へ 2025年5月のスポーツ庁・文化庁の有識者会議を経て名称変更。
「移行」では地域への丸投げ感が強く、誤った認識を招いてしまうことを国も危惧している。
- ・子どもたちの学びを守るためには？ やはり、運営団体の整備が自治体の肝になると感じている。
- ・実証事業には取り組んでみたものの、その後の展開を描けていない自治体も多いと感じている。

《主な運営団体の方式について》

1. 地域連携型 2. 自治体(直営)管理型 3. 管理団体立ち上げ型 4. 個別クラブ認定型

・事例1

プランを公開し、市民が生涯にわたってスポーツ等に親しみ楽しむためには・・・を中心に据えた考えで動いている。地域クラブコーディネーターを設置し、各地域クラブの指導者も指導責任者、指導補助に分けて取り組む等の工夫も取り入れている。

・事例2

自治体の外部に組織をつくる。校区には、こういうチームがあるといった情報を提供。部活動に近い立ち位置で展開をしている。

・事例3

立ち上げのための合意形成に時間を要する。どう団体をつくるか。社員・理事になってもらう必要がある。人選はどうするのが難しかったとの意見も聞いているが、持続可能性は高いというメリットも。

・今後の展望

中学生だけでなく、対象範囲を広げる自治体も出てきている。小学生や高校生、大人も一緒に活動等。

○意見交流(約15分間)

(質疑応答)

Q: 3つの市のモデルについて、教職員はどこまで関わっているのか?

A: 2つの地域クラブについては兼職兼業で関わっている教職員もいる。

(質疑応答)

Q: 一般社団法人における理事・社員の位置づけについての確認

A: 一般の会社と同じイメージであるが、理事・社員のイメージはあまり浸透していない面もある。

→教職員の負担軽減には、特に土日の大会参加の際の規定等もよく確認する必要があると考える。

(質疑応答)

Q: 大会に出場する際には、学校名で出場するのか。

A: どのような形で参加するかによると聞いている。例えば拠点校(部活動)として出場する場合は、〇〇中(拠)という名前での出場、地域クラブでの出場であれば、地域クラブ名での出場という形で聞いている。

※地域クラブでの大会参加には、種目毎に異なる規定があったり、連盟登録費等も別途必要になったりすることもあるため、実態を確実に把握していく必要があると認識している。

(質疑応答)

Q: 本日紹介いただいた先進的な3市のモデルは、他の自治体と比べると子どもたちの地域クラブへの参加率は高いのか?

A: 具体的な数値を示すことはできないが、紹介型に比べると参加率は高いと聞いている。

事務局より

みなさまのご意見からも、柱となるビジョンを設定したうえで、やはり柔軟性も必要であると感じた。完全委託ですすめるとなると、難しい部分もあるのではないかという話もあったので、こちらの意見も含めて、今後検討していきたい。

4 おわりに

九鬼 スポーツ推進課長より

本日、講師よりご教授いただいた内容をふまえたうえで、このメンバーで協議を深めることができたことが良かった。今後もこうした形で対話を重ね、直接顔を見てご意見をお聞きできる機会を設けていきたい。また、部活動の地域展開については新しい取り組みであるので、本日の議論でも挙げたように課題は山積している。今後も辰本委員長をはじめ、協議会のみなさまのお力をお借りしながら、本市に適した形を追究し、すすめていきたいと考えている。本日、委員のみなさまにお集まりいただいたこと、また講師の山本様におかれては遠路お越しいただき貴重なご講義をいただけたことにあらためて感謝申しあげる。

(事務局より諸連絡)

- ・第5回以降の開催日程(案)の確認
- ・今後も講師の招聘する機会(第3回を予定)を設けたい
- ・ふり返りシートの記入依頼

(次回の開催連絡)

- ・第5回:令和7年9月下旬～10月上旬頃開催予定

※詳細が決定次第別途連絡を行う。